

アジア太平洋地域での大規模戦争勃発の危険性

2023年5月13日 広島 木元茂夫

全体像

「台湾有事」が勃発する可能性は、極めて低い。

政治的には、台湾で大陸との統一を支持する人々は10~20%。

逆に、中華民国を解体して「台湾共和国」の建国独立を目指す立場の人々も少数派。

軍事的には、台湾に侵攻した場合、その後の統治は極めて困難になる可能性大。

経済的には、中国との関係は深まっている。

2024年1月の台湾総統選後に成立する新政権がどのような対外政策を取るかで情勢は変わる。

南シナ海では、米軍の軍事行動が拡大している。

フィリピンに新たな「軍事拠点」4ヶ所を確保 - 台湾と南シナ海、両睨みの軍事体制

大規模軍事演習バリカタン23(4月10日~)で、米軍はフィリピンに1万2000名を送り込んだ。

インドネシアでも大規模軍事演習(22年) ガルーダ・シールド22 陸自第1空挺団等も参加

朝鮮半島では、

昨年夏以来、原子力空母レーガンや強襲揚陸艦などを送り込み、米韓合同軍事演習を繰り返し、自衛隊も部分的に参加した。

朝鮮(DPRK)はICBM級を含む弾道ミサイルの連続発射で応えた。

一時的に緊張が激化しただけで、何の解決にもなっていない。

1.G7 諸国との共同訓練の拡大

■23年4月21日 フランス領ポリネシア駐屯軍 フリゲート艦プレリアルが横須賀に入港
(4月8-9日 台湾海峡通過)

●フランス領ポリネシア(1880年~)

人口約28万人、4167km²(118の島があり、有人島67)、海域250万km²

首府パペーテ(タヒチ島)

駐屯軍 1500人

太平洋ポリネシア海兵歩兵連隊 約900人

海軍 約600人(フリゲート艦1隻、戦車揚陸艦1隻等)

国家憲兵隊760人

ムルロア環礁などで1966年~1996年まで、フランスは核実験を繰り返し多くの住民を被爆させたにも関わらず、補償は極めて不十分なまま。

■フランスとの共同訓練は22年にも

フランス領ポリネシア駐屯フランス軍(FAPF)のフリゲート艦「プレリアル」は6月26日、日本の護衛艦「いずも」「たかなみ」と共同訓練を実施しました。

フランス領ポリネシア駐屯フランス軍(FAPF)は6月26日にハワイ周辺で、海上自衛隊の艦艇2隻と新たな共同訓練を実施しました。これは2022年に実施された4回目の日仏共同訓練「オグリ・ヴェルニー」です。

日本の護衛艦「いずも」と「たかなみ」は、アメリカ海軍主催多国間共同訓練（RIMPAC2022）への参加に先立ち、フランスのフリゲート艦「プレリアル」と共同訓練を行いました。今般の訓練は海上自衛隊の戦術技量の向上と、フランス軍との連携強化が目的でした。フランスと日本は自由かつ安全で開かれたインド太平洋を推進するため、手を携えて行動しています。

在日フランス大使館 HP より

■南シナ海と東シナ海で、中国の艦艇と日米豪を中心とする G7 の艦艇、どちらが軍事行動を数多くやっているか?? →G7 艦艇の軍事行動の方が多い。

■2015 年、中国軍が南シナ海スプラトリー諸島のファイアリークロス礁など、いくつかの岩礁を埋立て航空基地を建設。

しかし、この基地を拠点に、付近を航海する民間船舶の航行を妨害したという報道はない。

一方、民間船どうしのトラブルは起きている。

アメリカ海軍は、付近で「航行の自由作戦」を繰り返し実施。

この問題では中国とフィリピンは外交交渉を重ねている。

■2021 年 9 月 イギリスの空母クイーンエリザベス打撃群、横須賀入港

入港前後に日本海、東シナ海、南シナ海で日米共同訓練、多国間訓練など 14 回。

米原子力空母カールビンソンも参加。

訓練一覧は rimpeace 追跡在日米軍に [2108to09goudouenshuu3 \(rimpeace.or.jp\)](https://rimpeace.or.jp)

この後、中国・ロシアの合同艦隊が日本列島を一周する訓練をやった。

■ G7 外相コミニケ 4 月 18 日 長野県軽井沢

「我々は、中国に対し、国連憲章の目的及び原則を堅持し、威嚇、威圧、脅迫、又は武力の行使を控える必要性を想起する。我々は引き続き、東シナ海及び南シナ海における状況について深刻に懸念している。我々は、力又は威圧によるいかなる一方的な現状変更の試みにも強く反対する。南シナ海における中国の拡張的な海洋権益に関する主張には法的根拠がなく、我々はこの地域における中国の軍事化の活動に反対する。我々は、国連海洋法条約（UNCLOS）の普遍的かつ統一的な性格を強調し、海洋における全ての活動を規律する法的枠組みを規定する上での UNCLOS の重要な役割を再確認する。我々は、2016 年 7 月 12 日の仲裁裁判所による仲裁判断が、仲裁手続の当事者を法的に拘束する重要なマイルストーンであり、当事者間の紛争を平和的に解決するための有用な基礎であることを改めて表明する。我々は、国際社会の安全と繁栄に不可欠な要素としての台湾海峡の平和と安定の重要性を再確認し、兩岸問題の平和的解決を促す。台湾に関する G7 メンバーの基本的立場（表明された「一つの中国政策」を含む。）に変更はない」

フィリピン政府が発表した 4か所の候補地



中国南海研究所の専門家チェン・シャンミャオ氏 「日刊
まにら新聞」より

- 「フィリピンにある4か所の基地に米軍が駐留するというのは、インド太平洋戦略の一環として、南シナ海付近での米軍のプレゼンスを拡大させることになるでしょう」。
- 「米国の戦略的意図の一つは、バラバク島に前進基地を建設することです。バラバク島は、中国が開発を進めている南沙諸島に面しています。したがって、この島を前進基地として利用する米国の意図は明白です。これは、中国をはじめとする南シナ海流域の国家に対する米国の情報活動や軍事的圧力を強化するためにも重要です」。
- 「米海軍と空軍を複合的に展開するための多目的基地をバラバク島に設ければ、将来、この地域全体における軍事作戦において米軍に後方支援と物資を提供できます」。

バリカタン23に自衛隊が参加したかどうかは、確認できていない。「統合幕僚長が視察」「オブザーバー参加」などの報道はあったが、実際に参加したという発表はない。こっそり参加したかもしれない。

(左地図は「読売新聞」よりの引用)

横浜ノースドックから米陸軍の小型揚陸艇 LCU で、バリカタン23の前にフィリピンに物資を輸送。

令和5年3月27日 海上幕僚監部

日米共同訓練について

海上自衛隊は、日米同盟の抑止力・対処力を強化すべく、次のとおり米海軍と共同訓練を実施しました。

- 1 目的 海上自衛隊の戦術技量及び米海軍との相互運用性の向上
- 2 期間 令和5年3月24日(金)・3月25日(土)
- 3 訓練海空域 南シナ海
- 4 参加部隊 (1) 海上自衛隊：護衛艦「きりさめ」(佐世保)
(2) 米海軍：駆逐艦「チャンフーン」(DDG93 横須賀)・「ミリウス」(DDG69 横須賀)
- 5 訓練項目 各種戦術訓練(対水上戦、LINK EX)、PHOTO EX等

2 台湾有事はあるのか—勃発の可能性は極めて低い

●日本の台湾報道の異常さ

2024年1月に4年に一度の台湾総統選がある。

民進党が政権を維持するか、国民党が政権を奪回するかで、その後の中台関係は大きく変わる。

それなのに、民進党と国民党の政策論争などを紹介する記事はあまりに少なく、「台湾有事」という視点からの記事があまりに多い。

●2020年1月の台湾総統選 人口2360万人、有権者数1930万人、投票率約75%

民進党・蔡英文 817万票 国民党・韓国瑜 552万票

『蔡英文再選 - 2020年台湾総統選挙と第2基蔡政権の課題』(アジア経済研究所 2020年)より
背景に「逃亡犯引き渡し条例改正案」反対運動の高揚。習近平政権による香港民主化運動への弾圧。

2019年07月01日 返還記念日恒例のデモに55万人が参加。一部が立法会を一時占拠。

2019年11月08日 警察がデモ隊を強制排除中に転落した大学生、周梓楽が死亡。

「この1年間に、一連のデモで逮捕された市民は延べ約9000人」

(益満雄一郎『香港危機の700日全記録』2021年 ちくま新書)

2020年06月30日 中国・全国人民代表大会、香港国家安全維持法を可決

容赦のない弾圧は、民進党への追い風となった。

民進党は頼清徳氏(現民進党主席。1959年生、内科医、米ハーバート大で修士号取得)を候補に決定。

国民党は侯友宜氏(新北市市長。1957年生。警察官僚出身)か??—候補者未定。

●中国と台湾の貿易は拡大し続ける—中国の輸入相手国・地域、2年連続で台湾が第1位

「2021年の中国の対台湾輸入について、ジェットロがグローバル・トレード・アトラスを基にまとめたところ、中国の輸入相手国・地域で台湾が2年連続1位となった。中国は台湾から半導体を含めた電子部品を大量に輸入しているため、中台間の貿易は構造的に中国の貿易赤字となっているが、2020年、2021年は特に輸入の伸びが著しい。

2021年の中国の対台湾輸入額は24.5%増の2,514億6,050万ドル、輸出額は前年比30.3%増の783億8,431万ドル、貿易収支は1,730億7,618万ドルの赤字となり、いずれも過去最高だった(添付資料図1参照)。中国の貿易相手先を国・地域別にみると、台湾は輸出額では第11位だが、輸入額では第1位に位置する。台湾は2020年に韓国を逆転して1位となり、2年連続で中国の最大の輸入相手先となった」(ジェットロ-日本貿易振興機構-ビジネス短信より)

●呉叡人『台湾、あるいは孤立無援の島の思想 - 民主主義とナショナリズムのディレンマを越えて』

(みすず書房 2021年)

「2014年に勃発した「3・18反サービス貿易協定運動」は、台湾における国民国家形成がようやく成熟段階に到達したこと、さらには台湾の国民国家体制の内に左翼(階級)政治の新しい波が出現したこと(あるいは台湾ナショナリズムの社会的基盤が左寄りに移動したこと)を予感させるものである。この運動はまた、反帝国主義(中国)、反資本主義、民主主義の強化と深化、さらに新世代の青年層における政治的主体の形成などが相互に絡み合って複雑な様相を呈している。3・18運動は国民国家台湾の成熟の象徴であると同時に、新自由主義的な資本主義のグローバル化に抵抗するローカルな形態として、世界、国民国家、階級、さらに世代にかかわる多元的な意義を同時に兼ね備えている」

●注「3・18反サービス貿易協定運動」は、ひまわり学生運動とも呼ばれる。国民党・馬英九政権下の立法院占拠闘争を指す。

■中国の主張 昨年はこちらまでは言わなかったと思うが 「人民網日本語版」2023年4月10日
「国防大学国家安全学院の張弛准教授は「今回の演習への『山東』の参加は、今回の行動の大きな注目点だ。空母『山東』の艦隊が第一列島線を出て配備されたことは、中国の遠洋作戦能力が大幅に向上したことを物語っている」と指摘。「空母『山東』の艦隊は西太平洋の要衝・要路を占拠することで、海上の障壁としての役割を發揮し、対外的には外部の干渉勢力を阻止し、対内的には『台湾独立』分裂勢力を封鎖して、部隊を配備することができる」とした。張准教授は「今後中国の空母艦隊はさらに頻繁に遠洋へ挺進し、地域の平和と台湾海峡の安定を維持する大国の重要な力となるだろう」とした。（編集NA）

5月5日 山東昭子・前参議院議長、台湾を訪問し蔡英文総統と会見。

3 朝鮮半島をめぐる - 米韓合同軍事演習は緊張を激化させただけで何も解決しなかった

■令和5年3月18日 統合幕僚監部 日米共同訓練の実施について

北朝鮮がICBM級弾道ミサイルを発射する等、我が国を取り巻く安全保障環境がより一層厳しさを増す中、自衛隊と米軍は下記のとおり日米共同訓練を実施しました。本訓練を通じて、あらゆる事態に対処する日米の強い意思と自衛隊と米軍の即応態勢を確認するとともに、日米同盟の抑止力・対処力を一層強化しました。

- 1 期日 令和5年3月18日（土） 2 訓練海域 日本海
- 3 参加部隊 （1）海上自衛隊 護衛艦「あたご」（舞鶴）（2）米軍 駆逐艦「ミリウス」（横須賀）
- 4 訓練項目 弾道ミサイル情報共有訓練を含む各種戦術訓練

■令和5年3月19日 統合幕僚監部 日米共同訓練の実施について

- 1 期日 令和5年3月19日（日） 2 訓練場所 日本海上の空域
- 3 参加部隊 （1）航空自衛隊 第2航空団（F-15戦闘機×4機）
（2）米軍 B-1B爆撃機×2機、F-16戦闘機×4機
- 4 訓練項目 各種戦術訓練

4 石垣駐屯地の開設 - 琉球弧(南西諸島)の自衛隊増強はこれからも続く

- 3月05日 車両搬入。 抗議行動と全国集会(約200名)
- 3月16日 編成完結式 井戸川一友第15旅団長と井上雄一郎駐屯地司令が中山市長を訪問
- 3月18日 大型揚陸艦「おおすみ」石垣港入港、ミサイル陸揚げ、駐屯地へ搬入。
コンテナ18個。
- 3月22日 石垣駐屯地開設説明会 主催 石垣市、沖縄防衛局、石垣駐屯地
- 4月02日 石垣駐屯地開設記念式典 浜田防衛相出席
- 4月06日 宮古島市の伊良部島付近で、陸自第8師団長、宮古島駐屯地司令らに乗せたUH60JAヘリ

が墜落。

4月08日 宮古島市の下地島空港に在韓米軍のF16戦闘攻撃機2機が緊急着陸。

嘉手納飛行場にF15E戦闘爆撃機(爆弾搭載量が従来機より多い)が6機飛来

●これって、ミサイル展開訓練ではないのか??

4月22日 朝鮮の情報収集衛星打ち上げの情報で、「破壊措置準備命令」発動。

同日16時過ぎ、イージス艦「まや」が横須賀を出港。

4月23日 与那国空港に空自輸送機C2で、PAC3発射機を輸送。陸自与那国駐屯地に配備。

4月26日 宮古空港に空自輸送機C2で、PAC3発射機を輸送。空自宮古島分屯基地にPAC-3を配備。

4月27日 石垣空港に空自輸送機C2で、PAC3発射機を輸送、防衛省が年間契約しているフェリー「はくおう」で石垣港に関連車両40台を陸揚げ、石垣駐屯地に配備。

●与那国島では03式地对空ミサイルの配備が予定され、5月15日に住民説明会が開催される。

●今回も頻繁に使用された大型輸送機C2(川崎重工製造)、空自は14機保有。10年後までに22機に増強の予定。(2月13日の防衛省の文書回答)

●23年度予算に計上された12式地对艦ミサイル能力向上型は、4月に三菱重工と契約。

●「12式地对艦誘導弾」(三菱重工製造)は26年度をめどに「能力向上型」が配備され、射程距離が1000km以上となる。各島の「住民説明会」の時点ではそうした説明はなく、防衛省は「配備先は決まっていない」としているが、住民の不安と不満が渦巻いている。

結語 武力で平和は作れない。増額された防衛予算のもとで、日米共同作戦行動はこれからも拡大し、緊張は高まり、偶発的な衝突も起きるかもしれない。しかし一方で、軍事力を突き合わせることで何も解決しないことを立証していく時代になるだろう。日本の置かれた経済的現実を無視した「安保3文書」がどれほど無責任なものかも明らかになるだろう。ならば、どうするのか。軍事行動を抑制し、外交にどれだけの力を注げるのか。私たちが確信をもって、そういう運動をやり続けるかどうかにかかっている。

●最後に、自衛官の生と死 - 第15旅団では新入隊員に「人を殺すことがあるかもしれない」と教育
中岡絵梨子・元宮古島分屯基地司令兼第53警戒隊長 兵器管制官(WCO ウェポン・コントロール・オフィサー) スクランブル出動した空自戦闘機は、兵器管制官の指示で行動する、とは知らなかった。

「演習のとき、私は操縦者に対して事前にこう尋ねます。『あなたは任務達成を優先しますか、生存性確保を優先しますか』と。操縦者が『任務優先』と言うのなら、私は任務を成功させるための最善の選択肢を選んでいきます。でも、『生存性確保』であれば、ひとまず任務達成を目指すものの、極限の状態に至れば、あなたの命を守るためのオーダーをしますと、そう言ってきました」

武田頼政『桜華 防衛大学校女子卒業生の戦い』(2022年 文芸春秋)